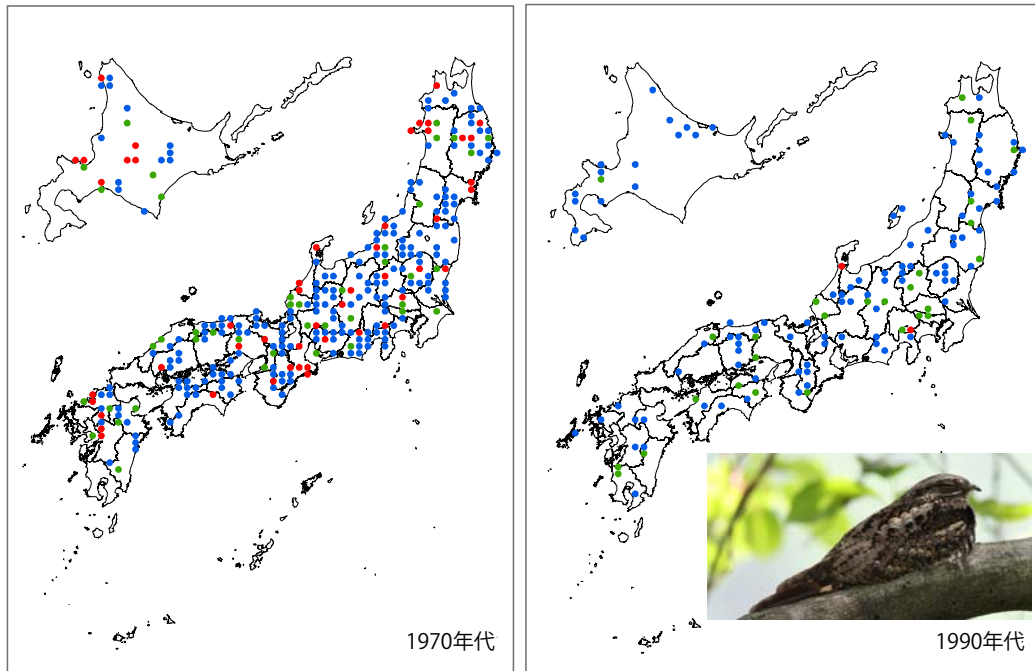


## 日本の鳥の今を描こう ～ 全国鳥類繁殖分布調査へのご支援 お願いします ～

特定非営利活動法人 バードリサーチ

1970年代と1990年代に環境省により全国鳥類繁殖分布調査が行なわれました。この2回の調査で全国的な鳥の分布とその変化が明らかになり、日本の生物多様性の評価や、レッドリストの改訂に役立てられました。



過去の繁殖分布調査により減少が明らかになり、準絶滅危惧種となったヨタカ。環境省 鳥類繁殖分布調査（2004）の図を改編

鳥たちの状況は現在も変化し続けています。近年ではシカの増加に伴う藪に住む鳥の減少、外来鳥の分布の拡大、温暖化に伴う鳥の繁殖状況の変化などが心配されていますし、思ってもいない変化が起きているかもしれません。

以前の調査から、早くも20年が経とうとしています。鳥たちの今を知るために、3回目の全国調査が必要な時期になっていますが、残念なことに次の調査を実施するための予算的な目処がたっていません。



シカの増加により減少したコルリやウグイス

分布を拡大しているガビチョウやソウシチョウ

そこで、NGO と環境省そして大学の研究者などとの共同事業として 3 回目の調査を実現させたいと考えています。全国で現地調査を行ない、分布図を描く大規模な調査ですので、多くの方の参加と協力、支援なしに成功させることはできません。ぜひこの調査への支援をお願いします。

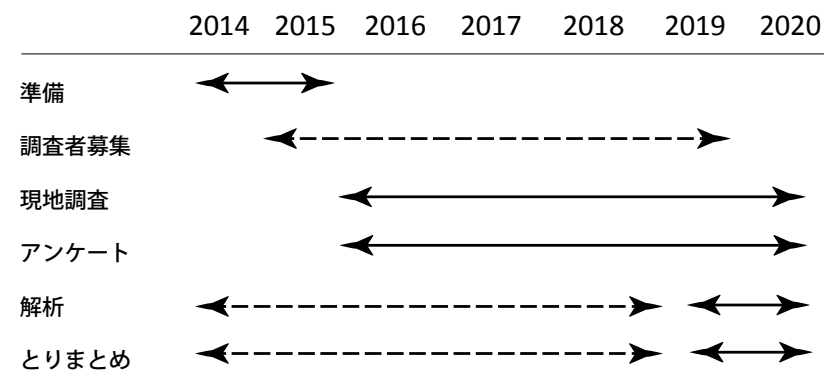
### 調査の体制と方法

バードリサーチ、日本野鳥の会、自然保護協会、日本鳥類標識協会、山階鳥類研究所、環境省生物多様性センターを中心とし、各地の団体等にも参加してもらい、2016 年度から 2020 年度まで、5 年間かけて現地調査およびアンケート調査を実施します。

現地調査は、全国 2,300 地点に設置された約 3 km のコースを歩き、そこに生息する鳥を記録します。対象種は日本で繁殖している鳥全種です。また現地調査では記録できなかった鳥もいるので、アンケート調査と文献調査も実施します。こうしたデータを手作業により入力集計すると事務局の負担が膨大になり、調査者への迅速な結果の還元が難しくなるので、調査者が WEB から入力し、結果が自動的に分布図に反映されるシステムを構築します。

この調査により得られるデータも非常に重要なものですが、様々な団体が参加して、調査を行なうことで、団体や個人の交流が生まれ、全国の市民参加型の調査が活発になることも目指しています。この調査から派生した、さまざまな調査が生まれ、発展していくのでは、と期待しています。

### 今後の調査のスケジュール



### 2015 年までの進捗状況と 2016 年度の計画と寄附金の使用予定

2015 年度には、ホームページや SNS の開設、各種イベントでの告知などで、調査参加者を募り、現在までに 492 人の申し込みと 502 か所の調査地登録がされています。今後、さらに参加者や調査地点をふやすとともに、2016 年からは現地調査を開始します。

募金いただいた資金は、現地調査にかかわる費用として使わせていただきます。大規模な調査ですので、必要経費だけでも大きなお金が必要です。助成金の獲得、独自資金の充当などこちらで努力しますが、ぜひともご支援よろしく願いいたします。